

# グディー・パードゥワーについての私の物語

イーシャ・サーデサイ

2020年3月24日火曜日

数年前、私はマハーラーシュトラ州のプネーで、グディー・パードゥワーをお祝いしました。私は地球の反対側、米国で育ちましたが、私の親戚のほとんどはそこに住んでいます。この国の多くの場所(マハーラーシュトラ、アーンドラ・プラデーシュ、カルナータカ、そしてマニプールの各州など)の人々が新年として認めるこの日をお祝いするために私がインドにいたのは、これが初めてのことでした。

その日、早朝の光は柔らかく、その光の筋がどんなふうにも私の家族の家の中に差し込んでいたか覚えています。私の祖母は外のテラスに腰掛けていて、ニームの葉とマリーゴールドの花を交互に太いより糸に通していました。私が彼女の方に歩み寄っていくと、彼女は何かが入った小さな器を私に差し出しました。彼女の片方の眉をつり上げていました。どうやら私がそれを受け取るのかどうか疑っているようでした。

「これは何？」と、私は尋ねました。

「カドゥリンバ」と、彼女は答えました——ニーム。

私は、その器から1枚の葉をつまみ上げると、その端をかんでみました。たちまち唇をすぼめ、ぎゅっと目をつぶりました。やはりそれだけのことはあって、カドゥリンバのカドゥはマラーティー語で、「苦い」を意味するのです。すぐに、祖母は甘い食べ物を手渡してくれました。グドゥ(ヤシ糖)、あるいは砂糖だったかもしれません。これがグディー・パードゥワーの習わしの一つで、何か苦い物を食べ、その後あるいは一緒に甘い物を食べるのです。アーユルヴェーダの観点

では、ニームを食べることには健康に良い効果がたくさんあると言われています。血液を浄化し、免疫力を高め、体を浄化し滋養を与えます。より象徴的な意味からは、ニームと砂糖を食べることは、いかに人生そのものが甘く苦いものであるか、上り坂と下り坂の、喜びと悲しみの組み合わせであるかを思い出させるものと言われています。

私は、この伝統(苦い物、そして次に甘い物をかむこと)に魅了されました。というのも、新たな始まりが何であるかということについての大変正確で美しい観点をもたらしているように思えたからです。それはもちろん、新規まき直しをする時で、新たな意図を定める時で、比喩的な意味でスレートをきれいにする時です。しかしそれをする時、私たちはよくわきまえて、つまりやって来る年が十中八九、喜びも悲しみも運んでくるだろうと理解しています——そしてそれがどういう割合なのかは、私たちには分かりません。私たちには全く分からないのです。大部分において、私たちがここで横断しているのは未知の旅なのです。ですから、私たちの意図、決意、新たな始まりのお祝いは、その事実を否定することはできません。むしろそれらは、どのような状況であれ、私たちは常に最善を尽くす選択肢があることを思い出させる役目を果たします。私たちは常に、誠実、親切といった美德を持って行動することを選択できるのです。

ニームと砂糖を食べる伝統は、象徴的な意味を持つ別のイメージも私に思い起こさせました。それはバラとそのとげです。もしバラにとげがなかったら、私たちはこんなにもバラを、その美しさや香りの素晴らしさを認めるでしょうか。私たちはある種の自然な敬意を持ってバラを扱います。指にとげが刺さらないように細心の注意を払って近づきます。それは、人生への私たちの臨み方と同じです。私たちは試練や苦難から自分を守りたいから、規律を守る気になるのです。もし私たちが苦しみについて何の心配も持たなければ、自分の行動の結果について何の慎重さも持たなければ、私たちは本当に、この世界を生きる上ですべきことやしてはいけないことに従うよう、駆り立てられるでしょうか。

歴史的に、そして教典的に言えば、グディー・パードゥワーは、最愛の妻である美しく高貴なシーターと忠実で勇敢な弟のラクシュマンと共に、14年もの長く困難な流浪の生活を送った後に、アヨーダヤの王となったラーマ神の即位の日を祝うものです。そのため、グディー・パードゥワーの日に、人々はグディー、すなわち旗を家の入り口や窓に掲げます。グディーは、悪に勝利した印、無知を克服する知識の印、世界が再び自らを正している印です。

ヒンドゥーの太陰暦、パンチャーンガでは、グディー・パードゥワーは(グレゴリオ暦の3月か4月に当たる)チャイトラ月の月が満ち始める最初の日に行われます。パーダヴァーという言葉はサンスクリット語のプラティパダという言葉に由来し、月が満ちていく2週間あるいは欠けていく2週間の最初の日のことを言います。グディー・パードゥワーは、1年の中で最も吉兆な3日半のうちの1日とされています。

マハーラーシュトラ州では、各家庭がどのようにグディー・パードゥワーを祝うのか多少違いがありますが、誰もが基本的に従う幾つものしきたりがあります。ニームとグドゥもしくは砂糖を食べることはその一つです。多くの場合、砂糖は、複雑な図柄が彫られることもある大きな白砂糖の玉を連ねた輪、ガーティという形にします。(そう——インド人はとても創造性に富んでいます。砂糖でさえ特別な形になるのです)

各家庭は、グディー、つまり旗も掲げます。それは家の周りで手に入る物でできています。例えば、木の小枝や棒、棒を覆う絹のサリーの小布、棒の先端に逆さに取り付ける小さな銅もしくは銀の丸い器といったように。私の祖母が作ったようなニームとマリーゴールドの花輪は、(ガーティと似た)砂糖の輪飾りと同様にグディーに取り付けられます。扉を通るすべての人を歓迎して、さらに多くのニームとマリーゴールドの花輪が家の入り口を縁取ることもあります。このように飾られた家には、とても甘美で気持ちを高める何かがあります。それらの飾り付けを見たら、あなたの心は祝わずにはいられないでしょう。

グディーが掲げられると、そのために簡素なプージャーが行われます。それは、ハルディー(ウコン)、クムクム、花々で飾られます。それから、食事の時間になります。グディー・パードゥワーの伝統的な食事は、シュリカンド・プーリーです。サフランとピスタチオで香りを付けた裏ごしした甘いヨーグルト(これがシュリカンド)に、フライパンで揚げたてのすっきり膨らんだローティー(プーリー)。そしてさまざまなバジ、つまり野菜料理、そしてダール。グディー・パードゥワーは州全体の休日なので、誰もが一日中家にいる機会があり、一緒にごちそうを食べ、一緒に祝い、一緒にテレビを見ます(マーラティー語のチャンネルでは、ほとんどすべての連続ドラマにグディー・パードゥワー特別編があり、どういうわけか、登場人物たちのメロドラマに、グディーを掲げてプージャーをささげる場面が散りばめられています)。人々は、この縁起の良い新たな始まりに敬意を表して、自分が何をしたいのかという新年の計画を互いに分かち合います。この日に、家や車などの大きな買い物をしたり、新しい銀行口座を開設したりすることはよくあります。

グディー・パードゥワーは恐らくマハーラーシュトラ州の祭りに最も結び付けられますが、インドの他の地域には、この日を別の名前で祝う多くの人々がいます。アーンドラ・プラデーシュ州では、この休日はウガーディとして知られています。カルナータカ州では、ユガディです。マニプール州では、サジブ・ノーンガマ・パーンバ・チェーイラオーバです。マハーラーシュトラ州と同様に、これらの地域の人々は独自の習慣、伝統、食べ物で祝いますが、気持ちは同じです。新しい年です。それは新たな始まりです。そのようにその日を迎える人たちにとって、それは新しい世界です。

グディー・パードゥワーをお祝いした中で私の一番の思い出の一つは、プネーの通りをただ歩いたことです。グディーは各戸口に掲げられるか、バルコニーの窓から斜めに掲げられていました。通り全体にこれらの旗がずらりと並んで、まるでラーマ神自身が、シーター、ラクシュマン、ハヌマーン、そしてヴァナラ(猿)軍全体と共に今にも到着するかのよう、彩色された絹が風になびいていました。それはまさに何かの即位式、何か新しい任命のように思えました。何の

任命なのかは、私には分かりませんでした。それは、一人一人が自分で見極めるもののように思えました。

今年、2020年、世界中の人々が、自分自身を守り他人を守る責任に注意を払っています。人々は清潔さの重要性を思い出し、他の人も同じことをするよう手助けしています。ですから私は、人々が大勢で集まって祝うことはできなくても、それでも彼ら皆——あなた方皆——に、グディー・パードゥワーの活気に満ちた精神を感じてほしいと願っています。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。